

令和4年度第5回田上町教育委員会定例会会議録

1. 開会年月日 令和4年7月19日 午後2時00分
2. 開会場所 田上町役場 会議室2
3. 出席委員 教育長 安中 長市
教育委員（教育長職務代理者） 石田 一平
教育委員 山田 正夫、齋藤 美里、渡邊 悦子
4. 欠席委員 なし
5. 職務のため出席した者
事務局長 時田 雅之、指導主事 佐藤 春男、局長補佐 諸橋 弘樹
副参事 渡辺 真夜子
6. 会議に付した事件
 - (1) 議第1号 就学困難な児童生徒に係る就学援助について（秘密会）
 - (2) 議第2号 田上町交流会館条例施行規則の一部改正について
 - (3) 議第3号 営利目的の使用の許可に関する要綱の制定について
 - (4) 「田上の12か年教育」中間総括と今後の展望
 - (5) 諸報告
 - (6) その他
7. 会議の経過及び結果

令和4年7月19日午後2時00分、令和4年度第5回田上町教育委員会定例会の開会を宣言した。本会期を1日と提案し、了承され決定した。本日の会議録署名委員に渡邊委員を指名した。

教育長 大変ご苦勞様です。これより定例の教育委員会ということでよろしくお願ひします。

それでは、議事に沿って進めさせていただきます。まず(1)就学困難な児童生徒に係る就学援助について、事務局より説明をお願いしたいと思いますが、個人情報が含まれていることから、秘密会議にしたいと思いますがいかがでしょうか。（はい。の声）

(以後、秘密会)

教育長 では、(2) 議第 2 号 田上町交流会館条例施行規則の一部改正について、
(3) 議第 3 号 営利目的の許可に関する要綱の制定について、事務局より
説明願います。

局 長 お手元に資料No.2、資料No.3 を配布させていただいておりますが、春先か
ら検討させていただきまして、教育委員の皆様からも目を通していただい
た中で、議会の全員協議会にお諮りしまして、6月の全協で一応こちらの方
が議員の皆様から了解を得られたということで、今般資料を用意させてい
ただきました。

まず、資料No.2 の田上町交流会館条例施行規則ですが、こちらは一部改正
になります。今までの施行規則と変わったところが、下線を引いた箇所にな
ります。1 ページ目の一番下になりますが、ただし書き以下、ただし営利
目的として利用する場合の申請書の受付期間は、使用日の 1 月前の日が属
する月の初日から使用日の 7 日前までとする。非営利団体の皆様方につい
ては 2 ヶ月前の初日から受付を開始いたしますが、営利目的の場合は 1 ヶ
月遅らせることによって非営利の方を優先的に利用していただくという意
味合いで改正させていただいております。さらに同条 3 項になりますが、
前項に定めるもののほか教育委員会が特別の理由があると認める場合はこ
の限りではない。利用を受け付けるに当たって様々な場面が出てくるかと思
います。この規則だけでは判断しがたいものもありますので、そういった
ときに関しましては教育委員会が認めるものということで第 3 項を規定
いたしました。この改正が、附則に記載しておりますが 9 月 1 日から施行
ということで予定しております。資料の最後には新旧対照表を付けており
ますのでご覧ください。

続いて資料No.3 になりますが、営利目的の使用に関する要綱ということで、
新規制定となります。こちらにつきましても皆様から目を通していただい
て、ご意見を頂いていたところなんです、一応この形で要綱を規定させ
ていただくことで、議会からも了解いただきましたので、本日報告させて
いただくものであります。内容については記載の通りであります。

こちらの要綱につきましても、9月1日施行ということになっております。
これらの内容につきましては、7月号の生涯学習だよりを使い方の変更があ
りますということで記事を載せる予定でおりますし、町のホームページに
も掲載する予定でおります。

説明は以上であります。

教育長 ありがとうございます。この件はよろしいでしょうかね。1年かかりましたけど、なんとかこういう形でということになりました。臨時の教育委員会も開きましたし、皆さんからいろんなご意見いただいたんですが、こんな形になりました。確認したいことがありましたらお願いします。

渡邊委員 すみません。今まで通り文化協会に所属している団体は、半額減免ということは変わりはないんですよね。（はい。の声）

それと先生がお金を集めるんじゃなくて、代表がいて運営して先生をお呼びするというのは、営利に抵触しないということで考えてよろしいですよ。

局 長 そうです。申し出によるんですよ。申請時に運営方法の細かな部分まで確認できないので、渡邊委員がおっしゃられる形であれば問題ありません。

石田委員 だいたいどこの公民館事業もそうなんですが、サークル活動をどんどん広げたいというのは念頭にあるんですよ。サークル活動の場合は、講師へ謝礼を出すんですけども、その会費そのものは全員から集めるんですよ。サークル活動で尚且つ文化協会に登録という団体は、大体どこの市町村でもそれかな。登録団体でサークル活動が中心の中であれば、割とそういうことは一切問われないというところが多いですね。年間の帳簿を出せということなんか絶対ないでしょうし、それを出せなんか言われたこともないでしょうし、サークル活動であれば、ほぼほぼ問題ないと思います。

教育長 それではよろしいでしょうか。では(4)田上の12か年教育の中間報告と今後の展望について、私のほうから最初に説明させていただきます。

少し厚い冊子があるんですけども、実は去年、7月か8月にですね12か年教育が最後の年だということで、これを出させてもらいました。でも、すごくページ数が多くてグラフもすごく多くてよく分からないというのが一つと、そのとき言われたのが、子供が見えないと。それで、私と佐藤指導主事で大分悩みました。子供が見えるというのはどういうことなんだろうと大変悩んだんですが、非常に難しかったです。なんでかという、他の市町村で12か年分を纏めているというのが中々ないんですよ。そのなかでどうしようかと考えました。佐藤指導主事、説明願います。

佐藤指導主事 今お話があったように、昨年度の会でそういうご指摘を頂きましたので、

これを元にして一つ目は、昨年度作ったものの中で不用だと思われるものは削除させていただきました。したがって、ページ数が減っているということになります。それで、昨年度から今年度にかけて1年度分が増えていきますので、その中に載せてある資料は平成28年度から令和3年度分までを活用させていただきました。田上町でもICTが入りましたので、田上でこんなことをやっていますよという資料を作って各学校にお配りして点検していただいている最中なんですけれども、それをホームページ等で載せて紹介したい、もう一つは教育委員会の広報誌、竹の子というA3の裏表になるんですけれども、そこに載せて紹介したいというのがありますので、その完成を待ってというのがありました。それと、これまで田上の12か年教育に関わってきた方々からインタビューをさせていただいて、その内容を紹介させていただきたいということでもあります。細かく説明していると時間がないので、大きなところだけお話をさせてください。まず3ページ、菱形のグラフがあるかと思います。左側のグラフは平成28年度、右側は令和3年度であります。黒く塗りつぶしている部分が、先生方の子供に対する評価です。周りの点線部分は子供たちの評価です。一番上が幼稚園なんですけれども、幼稚園の先生方の子供に対する評価が大きく膨らんでいることがお分かりいただけるかと思いますし、その下は小学校1年生から3年生までの評価です。

この先生方が子供たちを良くできますよという、そういう評価をいただいている。次のページは、上の方が4年生から6年生までの子供たち、一番下が中学生ということになります。したがって、平成28年度と比べると、先生方が子供たちをとても良く評価してくださってるように変わってきてるなということでもあります。

それから、小学校6年生と3年生のグラフだけが大きいんですけれども、ワザとそうさせていただいているわけで、田上の12か年教育に対する評価を、同じ集団を年中組から中学3年生まで、ずーっと追いかけていったときのデータの蓄積であります。

これを見ると、4ページ目の中学3年生、これは昨年度中学3年生の子供たちが、小学校1年生からどのように変わってきたかを出したもののなんですけれども、四角のグラフが一番低くなっているかと思います。これは、あなたは自分の考えを持って人に伝えられますかということに対する自己

評価が低くなっているということでもあります。5 ページ目の小学校 6 年生、今の中学校 1 年生ですけれども、この子たちが 4 歳からどのように変わってきたか、これもやはり考えを持って伝えることは苦手だよという自己評価であります。

7 ページですが、田上の子の学力がどうなっているかということで、これは毎年集団が変わりますし、平均値を出しても母数が少ないのであまり意味がないんですけれども、とりあえず昨年度中学校 3 年生の子供たちが小学校 4 年生から NRT という全国的な学力検査があります。その結果、どのように変わってきたかというものをグラフに纏めさせていただきました。偏差値ですので、50 が平均ということになります。左側が国語、国語で個人的に驚いたのは、学年が上がれば大体下がってくるのが普通なんですけれども、中学 1 年生、2 年生、3 年生と少しずつ上がっていることが驚きでした。右側の方の算数・数学については、中学 2 年生の時に若干下がりましたがけれども、それ以外は全国平均をキープしているという、そういうことでもあります。

9 ページですが、グラフが 4 つありますが、全国学力学習状況調査という、文科が全国の小学 6 年生と中学 3 年生を対象として実施しているものがあります。令和 2 年度はコロナの関係で実施されませんでした。右側の上のグラフになりますが、先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについて分かるまで教えてくれますかという設問であります。中には次の年度にその設問がなかったり、小学校はあっても中学校はないというものがあるんですけれども、折れ線グラフが田上町の小学生と中学生なんですけれども、概ね右肩上がりかなというふうに評価できる、ということは子供たちは私の先生は分かるまで教えてくれるよという、そういう評価をしていることでもあります。

左下の方は、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますかということで、上がり下がりがあるわけですけれども、平成 30 年度には田上中学の 3 年生が 100 パーセント、いじめはどんな理由があってもいけないことだと回答していますし、令和 3 年度には小学校 6 年生が 100 パーセント、いじめはいけないことだと回答しています。

こういうことから 14 ページになりますが、田上の 12 か年教育はこれからの大きな課題として、幼小中が連携して皆で同じように子供を指導して

いく中で一番付けたい力は、子供たちが自分の考えを持ってみんなの前でそれを伝えていく、そういう能力と態度だというふうに思います。そのことを今年から幼小中で頑張っていきたいということで、15 ページからこんなふうに行っていきましょうというものを紹介させていただいているわけでありす。

17 ページの真ん中、ICT活用による学びの改善という項目を新しく付けさせていただきました。一つ目は田上の学校の先生方、小学校と中学校だけですけれども、教職員向けの校内研修資料を作成させていただいて、これを各学校に配布して活用していただきます。右側の方に、主な内容のところ、ICT支援員の活用とか新潟県の教員と育成指導、各学校で一人ひとりの先生方がICT活用の指導力をこの表でチェックして自分の弱いところ、身に付けなければいけないものを確認して行ってくださいということで付けさせていただきました。大体11 ページ位になるんですけども。

18 ページご覧ください。保護者向けの資料としてはこちらに掲載したものであります。こちらは8 ページになります。各学校で検討していただいて、直すところを直して各学校のホームページにこれを掲載していきたいというものであります。下の方については、地域の方向け用に広報誌へ掲載するものや町のホームページに掲載できればということ載せてあります。

あとは今年度のグランドデザイン、これまで発行した「たけの子」の中から2 回分を紹介させていただいています。以上です。

教育長

ありがとうございました。私からも少しいいですか。

7 ページ目、数値を出してはいけないんですよ。教育委員会が勝手にNRTの数値を出してはいけないんですよ。小学校は2 つあるからいいですけども、中学校はちょっとまずいなと思いながらも、数値は入っていないですよ。ちょっとギリギリなんですけど、こういうふうにしなと言葉だけでは何ポイント上ですとか分からないので出させていただきました。私、中学畑ですから分かるんですけど、小学校から頂いたときはこのくらいなんですよ。ところが、中学になるとこういうふう落ちてくる。これはもう昔からずっとそうだったんです。山田委員もご存じかと思いますが。ただ、田上はその中では頑張っている。中学行っても平均からちょっと上がる教科もあるので、なんとか50 を保っているなと思っています。

それから、佐藤指導主事と一緒に悩んだんですが、10 ページの上、児童生徒数、不登校の数です。これも中学校が一つしかないので、数字を入れることができなかつたのですが、パーセント表記に直して新潟県も増えているけれども田上も増えてますよ、特に中学校は非常に高いということは課題なのでやはり載せざるを得ないということで、載せさせていただきました。

全体的には、数値を見ながら、こうじゃないかああじゃないかとやっています。結局これしかできないですよ、どう考えても。12 年間見ていくためには、それしか方法がないなと思いました。ただ、そうじゃないのが必要かなと思って、さっき言いましたように 19 ページのところ何人かの方から私がインタビューをしてですね、そこでこうじゃないかなとか感想頂くのを纏めていくと、つまりそれは数値じゃなくて見た人の感覚、それも 12 年間ほぼ見てきた方から聞く方がいいんじゃないかと思って筆記しようと思っています。今のところ候補者は、丸山前教育長、前半ですが 8 年間見ておりますし、それから白井園長、最初の 2 年を除いて 10 年間見ています。途中からは園にいますが、学校もいきますので、授業参観に。それからもう一人、石田委員にもお願いして、その担任の方から纏めながら、私も 12 年間見ていますので、その中で子供がこういうふうに変ったんじゃないかなと、これ感想でしかないんですよ、数字じゃないから。片方は数字、片方は感想で纏めざるを得ないのかなと思っています。

それで、後ろの方に付けたプリントはですね、一つ目は 12 か年教育のグランドデザインですけども、後ろの方に中学校の職場体験と、もう一枚の方は各学校の総合の、こんなふうに 1 年 2 年 3 年やっていますよというのを入れさせてもらって、ここら辺りを見ながら皆さんに感想を聞いて、ここら辺りがそれが出てくればいいかな、なんて思っています。

説明が長くなったんですが、こんなふうにしたらもっといいんじゃないかとか、こういうところももっとできないかとか、というものがありましたら、まず今ご感想で聞かせていただいて、また後でも結構ですので連絡いただければいいかなと思っています。説明が長くなってしまいました。

皆さん、どうでしょうか。

渡邊委員

それでは、10 ページを説明していただいたときに、下に新潟県小学校不登校児童の割合で丸が、下の四角の小学校不登校、これは中学校ではない

んでしょうか。表のところに。

山田委員 両方小学校。

渡邊委員 両方小学校なんですか。

山田委員 なってますよね。

佐藤指導主事 自分で今話をして気が付きました。棒グラフのところに内訳が書いてなかったの。訂正させていただきます。

教育長 下が中学校ですか。

佐藤指導主事 四角が中学校です。

石田委員 これ、たたき台の時と比べると、ページ数にするとどれくらい、半分くらいですか。

佐藤指導主事 いや、3分の2くらい。若干ICTの部分がちょっと膨らんだのもあります。

教育長 ICT抜かせば半分以下です。

石田委員 頑張りましたね。

教育長 3ページの、小学校も中学校も子供って年度によってですね、自分が何をやっているか評価するのに、そんなに変わらないですね。

佐藤指導主事 そんなに変わらないです。自己認識が育ってはいませんので。ただ、こっちとしては子供の評価と先生方の評価は必ず違うはずだから、その中で自分は頑張って一生懸命やった人に子供の評価と照らし合わせると、いまいちだなどか、逆になんとなくやってきたんだけど子供にとってすごく受け入れられているんだなど、そういうところから自分の改善を見つけてくださいという、そのための資料なんです。ただ、先生方の子供たちを見る目がとても良くなっているというのが凄く嬉しくて、載せてしまいました。

教育長 そうなんですよ。それは凄く謙虚だなと思いますし、反対に先生方は授業の時によく分かるまで教えてくれるとか、そういう項目が上がっていますよね。子供の先生に対する評価も上がっていて、先生の子供に対する評価も上がっていると。これは、事実として数字で出てくると嬉しいですよ。

齋藤委員 あ、11 ページの上の方のグラフ、放課後何して過ごすことが多いかのグラフだけ、これ何グラフというのか分からないですけども、この形にした理由はあるんですか。このグラフだと県と田上の対比が非常にわかり

にくいと思います。

佐藤指導主事 分かりにくいですかね。

齋藤委員 分かりにくくないですか？

佐藤指導主事 分かり易いと思ってやってみたんですが。

齋藤委員 並んでると、ああ低いんだとかあれですけども、横に広げた理由って、これ何グラフっていうのか、知識がなくて。これだけこれになっているので何か理由があるのかなとか思って。見た感じは数字を追わないと、結局 80 と 76.5 が、追わないと分からない、どっちが高いのか分からないと思うんですけども。

教育長 齋藤委員、これ左側のグラフは、さっき小中間違えましたけど、例えば中学校はこう一番黒くて多いですよ。これ分かり易いですよ。それに太い線の折れ線グラフがありますよね。そういうふうに見比べているんですけども、何かやっぱり分かりにくいですか。

齋藤委員 10 ページは分かり易いです。11 ページの広がっているのが、対比が、並んでないからどれくらい違うのかよく分からなくて。なんか、感想でした。

石田委員 これ、逆言えば上の方が学校関係絡みで、下の方は家で趣味の部類になりますよね。そうすると、どっちのボリュームが多いか少ないかと言えば、逆に見やすいかもしれません。

齋藤委員 上と下を対比させると？新潟県と比べるんじゃないか？

石田委員 左右でも大事なんですけれども、前後で趣味の部類と学校生活の部類のパーセンテージと、それをまず見てから県平均を見た方が非常に納得しやすい、と思うような気がします。このグラフ、私は嫌いではないな。

教育長 私は項目がいっぱいあって、それを横に並べると入らなくなると思っていました。難しいね、これ。

佐藤指導主事 私はこの方が比べやすいかなと思って。

齋藤委員 項目ごとに比べるのであれば確かにこのグラフ・・・、町と県を比べるんじゃないというふうに見ればこのグラフなんですね。

石田委員 これ、ビジュアル的に見るとこれで正解のような気もしますけれどもね。細かく見たらあれですけども、折れ線グラフがあっばっと見た感じ、目にやさしいですかね。

教育長 なるほどね。県と比べてじゃなくて、何に時間を費やしているんだろうといったときに見やすいということですね。

石田委員 そういうことです。

齋藤委員 それであれば、分かりやすい。

教育長 他どうですか。局長、補佐からもし何かあったら。

局 長 10 ページの上段のグラフは、どちらかという人口ピラミッドを出すときとかに使われることが多いグラフだと思います。

山田委員 先ほど子供の姿が見えないと指摘を受けたということなんですけれども、それをどう表すかということでご苦労されてきたわけなんですけれども、全部とはいえないんですが例えば3 ページから4 ページにかけて4 つの構造、評価の中でですね、先生方だけでも子供がこういう姿が見れようになりましたというような文章記述で表す、しかも全学年でなくて小学校6 年生、中学校3 年生、そこら辺りで絞って、こういう姿が見れるようになってきて良かったというのは、そんな声を入れていくということで、少しでも子供の姿を表すことができないものなのかなと先ほどから考えているんですけれども。どうなんでしょうかね。これこれが良くなった、やや低いとかやや伸びてきたということだけでなく、具体的に…。また長くなるのでね、大変だなと。

 子供の声の中々出てこないと思うんですよね。可能であればということで考えていただければ有り難いです。

教育長 私が今ひとつ考えているのは、そういう言葉は、インタビューした3 人から出てくるのではないかという気持ちもあるんです。そうするとまた、強調できるかなと、いうふうに思っております。

 今、山田委員がおっしゃったように、もう少し強調した文章を書きながらも、そういう話で最後纏まればいいのではないかと考えていますが。一人ひとりの先生が、そういうことが中々分からないし言えない。つまり、もう少し良いところをどんどん出せということですね。ありがとうございました。

石田委員 総括のありようですよ。つまり、こういうふうになっているんだと。それで指針があれば見ている方も安心しますよね。

山田委員 そんなもんですよ。子供の姿を見せるとは。そんな出せるわけないんだから。

佐藤指導主事 これまでのアンケートが、いわゆる記述欄がないんですね。今までは年中組から中学3 年生までの子供全員、4 段階で丸を付けていただくもの、先

生方も4段階から丸を付けていくもので、今年、是非先生方から、書ける人は書いてくださいという形になりますけれども、記述式を教師の分だけちょっと加えてみたいと思います。

山田委員 記述式だと中々大変だと思いますよ。

教育長 例えば13ページに成果とあるじゃないですか。ここら辺りをもう少しさっきのものを入れたりしながら、アピールできるところは精一杯アピールしたらどうでしょうかね。

山田委員 何人かの先生に聞き取りでもいいかと思うんですよね。アンケートであまり細かいことを聞くと、答えるのが嫌になってしまというのが、私自身そうですからね。先生方何人かに、どんなところが変わったと思いますかくらいに聞いてそして入れていくだけでも、読む方の印象としては随分変わってくるんじゃないかと思いますけれども。

佐藤指導主事 私も紙を集めて資料作るのに使ってるんですけど、その中でいいと思うのは、小学生のアンケートの中に右側に少し空欄があるんですけど、そこに、これはね分かるけど中々できないんだよって、そういったものは紙ベースだと拾ってこれるのでいいかと、分かるけどできないよ、難しいよと、そういうのが、配慮がいいですね。

教育長 そういう感想があったんですか？

佐藤指導主事 感想ではないんですけど。何人かは書いてあるんです。

石田委員 成果のところのエピソード的な内容を入れるというのも、リアル感が身近になるんで、それも一つの方法ですよ。グラフの中にじゃなくて、成果の下の方に一言二言、こんな感じでしたというのを入れてもらえると、見てる方は安心しますよね。

佐藤指導主事 分かりました。ありがとうございます。

教育長 では、これですね近々インタビューして色々纏めたりしてまた見ていただきたいんですが、できれば8月中くらいに出したいと思っていますので、もしかすると郵送でお届けするかもしれません。そうしたらそれ見ていただいて、いいよということになりましたらお願いします。9月には皆さんにお配りしたいと考えています。さすがに12年経って、半年くらい過ぎてますので。一旦持ち帰っていただいて、何かありましたら佐藤指導主事へ連絡をお願いします。

それでは諸報告ですが、事務局の方で何かありますか？（ありません。）

の声)

では、私の方で毎年やっているんですが、定例議会があって一般質問が出たとき本当は一つずつきちんとお話しすればいいんですが、凄い時間がかかってしまいますので、議員から出た質問にこのような形でお答えさせていただきましたというふうにしたいと思います。

これがちょうど、一般質問が出て定例教育委員会があって答えるときは、定例教育委員会でこういうふうに答えたいといっているんですが、今回は逆でしたの報告させていただきます。

一つは、田上中のプールについて質問された議員が2人3人おられます。ここでお話をしたように…、これ局長から説明してくれる？

局 長

プールは基本的に修繕の方向ということで、来年は自校のプールを使って授業ができるように、ということで回答させていただきましたし、プールの関係でいうと3人の議員から質問いただいていたんですが、修繕もそうだけれども新築についても併せて検討してくれという話がありました。新築の費用についても今後併せて調べて、議会に示していきたいと回答させていただきました。

教育長

中学校のプールで議員の一人がアンケートを取ったことがあって、きちんとした形で議会にも話をさせてもらいますと、これからも保護者に対し説明させて頂く必要があるかもしれないと思っています。

他にですね、中学校の部活動が来年度から3年間かけて、休日、土日祝日は先生方がやらないで、地域の方が受け皿を作っていくんだと、というような話をここでもさせてもらいましたけど、その質問が出ました。私の方では、受け皿を作っていくけれども、今の1・2年生は急に来年度から休日は部活がないんですよというのは中々難しく、地域の受け皿イコール来年の祝日の中学校の部活をどうしていくのかと、その2本立てで考えていかざるを得ないんだろうなど、いうふうなお答えをさせていただきました。

それに関しては、8月に入りましたら教育委員会の方から中学校に行って、一人ひとりの部活の顧問の先生に実情を聞きながら、どういうふうにしていくか検討していきたいと思っております。

この件に関してどうですか。

齋藤委員

まだこれからなんですよ。

教育長

そうです。これからなんです。こうしたいという具体的なものはないん

です。

齋藤委員

形が全然見えてないので、私自身、周りもみんなそうですけど。

例えば学校で活動しているんだけど、先生が来なくて地域の人が教えに来るようになるのか、学校ではやらなくて休日は町のテニス教室なんかでやってねということなのか、そういうのとかも全然分からないので。想像さえもできないんですけれども。

教育長

活動場所はまた考えていくんですが、休日のですよ、まあ学校を解放することは十分可能ですよね。体育館があるんですからね。でも、なかなかその先生以外の方が体育施設じゃないところに入るのが難しいんですよ。一番難しいのが吹奏楽部だと思います。（ああ。の声）

吹奏楽部がどこで活動するかというと、音楽室だけじゃなく全ての部屋を使うんですよ。町の体育館は切り離されていて、夜でも昼でも解放できますよね。鍵渡せば入れますよね。でも、校舎の中をお貸しするとすると、そこに先生がいないと大変難しい問題が起きます。なぜかということ、教務室も含めて解放ができてしまうからなんですね。教務室は子供たちの個人情報如山ほどありますので、それを先生以外の方にお貸しすることができるかどうかという問題があって、大変難しいなと思っています。

また、こんなふうだと方向がある程度できたら、また相談させてもらいますけれども、それでいいですか局長。

局 長

いや、難しいんですけど、齋藤委員言われるように。

齋藤委員

他のところはどうやってやるんだろうと思いますよね。

教育長

他のところも、他の市町村も聞かせてもらったんですけども、何にも分からない中で、暗中模索の中でともかく動いてみようって動いているんですよ。来年度からうち大丈夫ですよなんていうところは、30 市町村どこにもないです。まだ決まっていないんです。凄く分かり易いのはですね、大きな市だと、例えば中学校が 10 校もありますよ、例えば陸上競技場を 1 つ持ってますよ、じゃあ市が陸上の指導者を 1 人 2 人雇って、休みの日は陸上競技場においで、そうしたら指導しますよ、これ分かり易いんですけど、田上町は 1 つしか中学校がありませんから。こんな限られた中で 8 つもあるスポーツの指導者がみんな揃うかということ、難しいですよ。経験者はおられると思いますが、部活動なんですよ。強くすればいいというものではなくて、子供の気持ちを考えて、教育的配慮をしながらやらなくてはな

らない。それから、もっと難しい問題は、部活動は最終的になくなるんだという方向で動いていますので、そのつなぎなわけですよ部活の延長って。最終的には地域の受け皿がみんな持つんだと、その地域の受け皿に野球があるかもしれないし。中学校の部活はないけれども、バドミントンの指導者がいっぱいいて、いい環境でしたらそういうのができますよね。そのすごい過渡期なんです。

ということで、非常に大きな課題でありますので、委員の皆さんとも相談していきたいと思います。

あとは、学校のバリアフリーについてご質問された方がいます。身体に不自由があって、階段を自分で登れない子がいるのではないかと。そういう子に関して、小学校も中学校も対応できるような施設にしていくということが義務付けられたというご質問なんです。新築をしたり大きな改修をしたりするときは義務付けられてるんですが、今急に付けるということは中々難しい。財政の問題もあって、一生懸命考えてみますが、今は人的な介助員、支援員の支援で上がり下りをして頂いてますと、いう説明をさせていただきました。

それから、日曜保育、竹の友ですね。日曜保育ができないかと、土日も保護者が働いている家庭があるんじゃないかということで質問を受けたんですが、今でも平日朝7時過ぎから夜7時くらいまで、12時間くらい子供を預かっています。土曜も希望保育をします。これは私の推測ですが、日曜日もすると365日預ける保護者が出てくる。拒否できませんから。そういう制度ですので。これは難しいと思います。現実問題として、有資格の保育教諭が対応しなくてはならないので、勤務の関係上、とても無理だなと答えさせていただきました。

局長、こんなもんでしたよね。

局長
教育長

はい。

ということで、議会の方はこれでよろしいでしょうか。何かもしありましたら。

では、もう一つ報告があります。新聞にも出ておりましたが、昨日、中学校の野球部が県大会で準優勝をしました。残念ながら決勝は燕吉田中という、田上の倍くらいの生徒がいるところに負けましたけれども、本当に頑張ってくれたなというふうに思いました。この子たちは小学校6年生の

時に、少年野球の方で県で一番になったと、実力もありますけれども、それにしても小学校からやってきた子が 8 人くらいしかいないのですね。中学入って始めた子が 3 人くらいいるのかな。2 年生が 1 人しかいなくて。1 年生はその他はいますけど、さすがに 1 年生はまだ使えないです。結局中学から始めた子も入れて、9 人で最後まで頑張ってくれたというふうに思っています。

齋藤委員 ちなみに決勝は何対何ですか。

教育長 5 対 2 です。

それからもう一つ、これもですね、あまりニュースなんかにはのっていませんけれども、アンダー17 女子バスケットで、田上中学出身で北越高校 3 年生の門脇さんという女の子が日本代表になりまして、つい 1 日 2 日前までハンガリーの方で世界大会があつて、そこに出ていました。

齋藤委員 北越の 1 年生？

教育長 3 年生です。補佐、これ町の方からお金が出るんですよ。

補 佐 はい。報奨制度で出す予定です。世界大会だと 5 万プラス全国で 1 万円で 6 万円です。

教育長 非常に明るいニュースが二つありました。

最後に石田委員から一言お願いします。

石田委員 今日、久々に 12 か年教育の資料を見ました。私、教育委員で 1 年生だったのが 10 月だったんですね。その年明けの 4 月に 12 か年教育ができたんです。本当に右も左も分からなかったんで、こんなものをやるんだということで、12 年前のことを思い出しました。私はそのとき何か言えと言われたんで、田上の 12 か年教育という名前だけでも周知をしてもらうのに 1 年でも 2 年でもいいからかけて、町の津々浦々までこの名前を周知していただきたい、それに専念してほしいという意見を述べたのを覚えていますけれども、その他は覚えておりません。（笑い声あり）

でも本当に長いなど、このスパンを見ないといけないのかなと思って、今日このグラフを見ながら、そうだったなあと思っていました。お疲れ様でした。

教育長 それでは、第 5 回田上町教育委員会定例会を閉会いたします。